

# オペレーションズ・リサーチ—経営の科学—

## —バックナンバーのご案内—

### 1998年 (Vol. 43)

- 7月号 社会科学における計量・数理分析の潮流
- 6月号 自然災害と防災研究
- 5月号 待ち行列理論の最近の応用
- 4月号 官庁統計
- 3月号 公益事業における規制緩和
- 2月号 ユーザのための数理計画応用
- 1月号 業務改革のための原価管理：ABCとABM

### 1997年 (Vol. 42)

- 12月号 高校生のためのOR (2)
- 11月号 電子マネー
- 10月号 組織システム論の新たな展開
- 9月号 多主体複雑系のパラダイム
- 8月号 通信・情報処理分野におけるORの実践
- 7月号 組織知能と情報ネットワーク企業
- 6月号 文科系のためのOR教育
- 5月号 ORの適用事例
- 4月号 ビジネスプロセスの分析手法
- 3月号 流通の今日的課題と展望
- \* 2月号 企業事例—トヨタの生産システム
- 1月号 都市構造と省エネルギー

### 1996年 (Vol. 41)

- 12月号 ゲーム理論の新たな展開と最近の適用例
- 11月号 オプション理論とその周辺
- 10月号 グループウェアとワークフロー
- 9月号 ピーク電力の予測
- 8月号 論文・事例研究 論文・研究レポート
- 7月号 統計モデル選択
- 6月号 ユーザのための数理計画入門
- 5月号 知的生産性向上
- 4月号 巨大プロジェクト
- 3月号 高校生のためのOR
- \* 2月号 危機管理と対策
- \* 1月号 テクノロジー・マネジメント

### 1995年 (Vol. 40)

- 12月号 DEA事例研究
- 11月号 CALS
- \* 10月号 ソフトウェア/アルゴリズムの権利保護をめぐる

- \* 9月号 スキャンパネルデータを用いたシェア予測
- 8月号 論文・事例研究 論文・研究レポート
- 7月号 情報化社会における最適化
- 6月号 エネルギー業界と規制緩和
- 5月号 CIMのOR
- 4月号 システムの性能評価と信頼性
- 3月号 情報通信ネットワークのマネジメント
- 2月号 開発方法論
- 1月号 OR：21世紀にむけて

### 1994年 (Vol. 39)

- 12月号 APORS会議
- 11月号 ORソフト—統計パッケージ—
- 10月号 ORとシステムモデリング
- 9月号 予測事例
- 8月号 リエンジニアリングの理念と本質
- 7月号 ソフトウェア/アルゴリズム特許をめぐる
- 6月号 企業モデルと評価指標
- 5月号 都市の省エネルギーをめぐる
- 4月号 マーケティングモデルの展開
- 3月号 配送のOR
- 2月号 クオ・ヴァディス
- 1月号 APORS諸国のOR事例

### 1993年 (Vol. 38)

- 12月号 OR普及へのカギ
- 11月号 ORソフト—離散系シミュレーション—
- 10月号 ORの計算環境
- 9月号 事例研究・研究レポート
- 8月号 交通のDSS
- 7月号 遺伝的アルゴリズム
- 6月号 国際化する世界と情報通信システム
- 5月号 コンピュータ・マッピング
- 4月号 理工系大学院教育の新潮流
- \* 3月号 ORソフト—数理計画
- \* 2月号 交通計画
- \* 1月号 防災のモデル分析

### 1992年 (Vol. 37)

- 12月号 学術コンピュータネットワーク
- 11月号 ガス産業

\* 印は品切れ。価格950円 (本体922円) [Vol. 42 4月号からは定価970円 (本体924円)]

(社)日本OR学会

〒113-0032 文京区弥生2-4-16 学会センタービル  
Tel. 03(3815)3351(代) Fax. 03(3815)3352

## テクノOR講座のご案内

ORという言葉は知っているが、なにか難しくて自分には関係ない、と思っている方へ、ここに耳寄りな話を提供しましょう。Excelなどを日常使っている方々には、今なら以前難しいと思ったことが手軽にできるかも、と感ずることがありませんか？ 人間の知恵、人間の判断力を素材にして、今なら自分の好きなように問題を料理できるかもしれない、という淡い期待はありませんか？

企業戦略は、ますます知恵をもってなさねばならない時代となりました。知恵をもってするという意味では、これまでオペレーションズ・リサーチ(OR)は、次々に大きな成果を挙げてきておりますが、それらの多くは大規模なソフトウェアによる、専門家の仕事と思われてきました。しかし、最近ではかなり難しい問題でも、パソコン上で気軽に解くことが可能になっております。

テクノOR講座は、自分自身の問題を目の前にしている現場の方々に、パソコンによるORを実感していただくために企画されました。ここで、扱う手法は、現場で実際の問題にも十分実用的な武器となるでしょう。ORを活用するのは、今や「あなた自身」です。さあ、我々と一緒にやってみましょう。新しい世界が開けますよ！

**日 時：**1998年10月17日(土) 10:00~17:30

**場 所：**青山学院大学情報教室1 (渋谷キャンパス11号館1階)

**主 催：**(社)日本オペレーションズ・リサーチ学会

**協 賛：**日本インダストリアル・エンジニアリング協会

**参加費：**無料

**プログラム：**裏面参照

プログラム:

1. 10:00 - 10:20 イントロダクション

2. 10:20 - 12:00 「DEA - Solver on Excel Macro」

刀根 薫 (政策研究大学院大学・日本OR学会前会長)

DEA(包絡分析法)は事業体の効率性評価のための、新しい手法として最近注目されています。DEAは行列形式のデータを対象とするので、それを処理する際には、Excelのデータとの連携がとれば便利です。幸いExcelには、MacroにVisual Basic Editorがあり、そのような目的に使うことができます。この講座ではこうして新しく開発した「DEA-Solver」を用い、DEA入門を行います。

3. 13:00 - 14:30 「コンジョイント分析と製品ライン開発」

高森 寛 (青山学院大学)

コンジョイント分析は、商品属性に関する消費者嗜好の質的なデータを変換して数量化します。また、数量化された消費者の価値観に適合しながら、新商品のコンセプトを形成します。これらの概念と手法を、Excelを使いながら解説します。

4. 14:40 - 16:00 「AHPと意思決定」

八巻 直一 (静岡大学)

AHPは、主観的評価を主とする意思決定を支援する新しい方法です。AHPは広い応用分野があります。講座では、実際直面しそうな問題を題材に、ExcelによるAHPの醍醐味を味わいます。

5. 16:10 - 17:30 「Excel上でOR活用のコツ」

権藤 元 (前近畿大学)

「答え一発がORではない」とよくいわれています。一応の解が得られてから、データを変化させたりモデルを手に入れたりして、やっと実用になるわけで、ここに、ORの醍醐味があるともいえましょう。この一連の作業はExcelの特徴を活かすと、実にうまい具合にいきます。いくつかの例を示しながらご紹介しましょう。

連絡先: 静岡大学工学部システム工学科 八巻 直一

Tel./Fax. 053-478-1214

E mail: yamaki@sys.eng.shizuoka.ac.jp